

特別支援学校における音楽活動の実践

小原 伸一

宇都宮大学共同教育学部教育実践紀要 第7号 別刷

2020年8月31日

特別支援学校における音楽活動の実践[†]

小原 伸一*

宇都宮大学共同教育学部*

特別支援学校では、小学部や中学部の音楽科での学習や、行事などにおける音楽演奏など音楽に関わる様々な活動が行われている。担当する教員は、学校での音楽経験を通して児童・生徒の音楽表現及び鑑賞の能力を豊かなものにしたという願いを持ち熱心に取り組んでいる。同時に、音楽指導における実技や専門的な理解など指導力の向上という課題もある。そこで、宇都宮大学教育学部附属特別支援学校において、教師の音楽指導に対する理解を深め、児童・生徒の音楽活動を充実させるために、実技指導を含む音楽活動を実践した。

キーワード：音、歌唱、身体の動き、音楽活動

1. 部内研修会（小学部・中学部）

本実践は、音楽授業を対象に附属特別支援学校で2018年（平成30年）11月7日に開催された部内研修会の講師として「音楽における表現活動の指導について」講話担当から開始した。事前に音楽活動を収録した映像資料を視聴し、日頃の音楽に対する取り組みについて情報を得た。多目的室に於いて小学部・中学部教員を対象に音楽表現の実践を含めたワークショップの参加型研修会とした。

4つのグループに分かれ協議を行い、音楽指導について次のような課題が出された（抜粋）。

①音楽を教えたことのない教員がどう音楽をお教えるか。三拍子、速く打つとかの指導。②意欲的な児童ほど大きい声（どなる）になりやすい。音楽が流れると耳をふさいでしまうが、身体表現には参加している。ピアノの伴奏が苦手なので子どもたちに合わせられない。③音楽活動が好きなおもたたちに技術的なことをどこまで教えるべきか。何を教え、どこを重点的にしたら良いか。④どこまでできたらどう評価するのか（障害が重い子）。季節の歌で生活の中の秋と「虫の声」などの秋のイメージがつながっているか。

多岐にわたる課題を、教科「音楽」に関することと、特別な支援を必要とする児童・生徒への指導に関する項目に整理し、特別支援学校小学部・中等部学習指導要領音楽科の内容をふまえ、簡単な音楽実技を交えながら、音楽指導上の課題解決の手立てについて考えた。

2. 校内研修会-1（小学部）

前年度の継続となる研修会が2019年（令和元年）9月17日、小学部の校内研修会として行われた。研修会は、午前3・4学年と1・2学年の2クラス、午後5・6学年の順に3クラスの音楽授業参観を行い、続いて授業検討会を行った。

研修会では、事前に音楽授業に対する質問事項が授業担当教員から出された。①「歌って踊ろう」という題材において、活動にのらない子ども達への指導支援について（例：リズムの良い曲にのらずに静かにしている子ども）。②歌いながら踊ることが難しい子どもへの指導支援。③音楽の楽しさを実感させるために必要な指導事項で大切なこと。④鑑賞の指導で大切にしたいこと。⑤歌唱の上手な指導方法（歌詞カードを読めない子への指導）。⑥簡単に扱える楽器を教えて欲しい。

これらは、研修会で参観した授業において、担当する教員が不安に感じていることが記されている。質問事項をふまえ授業を参観し、授業で音楽学習を展開する中で、教員が質問事項に記した課題を解決し、音楽活動に自信を持って取り組めるようになる

[†] Shin-ichi KOHARA*: Teaching of Music Activities in Special support school

Keywords: Sound, Singing, Physical movements
* Cooperative Faculty of Education, Utsunomiya University

（連絡先：koharas@cc.utsunomiya-u.ac.jp）

ための方策を考え、研修会で協議を行った。

質問に含まれる課題の内容は、①②では指導支援の方策を判断するために必要となる評価に関わる項目、③④は表現・鑑賞における音楽学習目標の設定に関わる項目、⑤⑥は表現の技能に関わる指導方法に関わる項目となる。これらの課題には、学習目標に対する達成度の見取りや指導方法の工夫など多様な観点が含まれているが、課題解決に音楽表現の実技に関する経験と理解の点で共通している。これは音楽を聴くという鑑賞活動においても、音楽表現の体験が音楽を聴く態度を深めることから、やはり共通部分と考えられる。

音楽学習の目標や指導方法及び評価は、歌うことや楽器を奏でること、即興的に音を創る活動などに共通する「音楽実技に対する基礎的な理解」に支えられている。そして、教員が音楽実技の技能に含まれる特質を客観的に捉え、それが音楽授業の計画・実施・評価とどのように関連するのかについて知ることが重要である。そうした双方の関わりに対する理解を深めることが、音楽の学習指導における課題解決につながる。

授業研究会の協議ではこの点に重点を置き、教師自身の音楽経験と音楽授業の内容との関わりを意識できる内容とした。

3. 校内研修会-2 (中学部)

小学部で行われた構内研修会に続き、中学部の研修会が同年9月30日に行われた。多目的室で中学部生徒17名、常勤教諭1名と音楽の非常勤講師1名による50分の授業に筆者も参加した。



歌唱では発声練習の音型や速度を工夫し、十分に声を出す経験を持たせ、器楽のリズム演奏では、基礎技能を確実に身に付ける実践を行った。

4. 学校行事 (学校祭) 音楽練習の指導

10月25日、学校祭の発表に向けた中学部の音楽練習の指導を担当した。体育館の広い空間を使った音楽表現では、教室とは異なる配慮が必要となる。体の動きと音の広がりを意識した個別の練習を組み合わせ、表現が豊かになった。



練習に参加した教員の「先生の御指導のおかげで、生徒たちのモチベーションはもちろんのこと、我々も、大変参考になりました」「やはり、やらせたいことがあるときには、そのものだけではなく、取り出して少し違った視点からの取り組みも必要だと言うことを教師も実感したようです」には、筆者の音楽指導の実践から、音楽活動に必要な教師の指導力への新たな気づきが記されていた。終了後教室に戻る生徒の「また会いたいね」という挨拶の言葉に励まされた。

附属特別支援学校で音楽教育に関わり交流する機会を通して、音楽活動の質的な向上に寄与することができた。今後は、特別支援教育における音楽教育の専門家と連携し、演奏家としての立場から音楽活動を支援したい。

令和2年4月1日 受理

Teaching of Music Activities in Special support school

Shin-ichi KOHARA